

竹原市

竹原は、江戸時代（1603～1867）から明治時代（1868～1912）に、日本を代表する塩と酒の生産地区として有名になった歴史的な街です。広島県中南部の瀬戸内海に面した保護湾内にあります。竹原は江戸時代初期に大規模な塩の製造地となりました。町の塩は、大阪、江戸（現在の東京）、そして関門海峡（本州と九州を隔てる）を経由して北前船で日本海に沿って北の秋田県と北海道に2つのルートで輸送されました。船はこの時期に重要な商品でもあった米を持って戻ってきました。

2019年、竹原は北前船の寄港地として日本遺産に指定されました。

塩作りにおける竹原の成功は、その歴史的な地区に保存状態の良い商家や倉庫がたくさんあることから明らかです。

塩の生産は主に夏の活動であり、太陽の強い光線の下で海水が蒸発するため、商人は冬の間、酒造りを始めました。

現在、酒蔵は3つしか残っていません。地元の伝統的な日本酒の製造方法を継承し、150年以上にわたって運営されています。竹原は、ニッカウイスキー蒸留会社の創設者である竹鶴政孝（1894–1979）の発祥の地です。

竹原は瀬戸内海に近い地域特有の豊かな自然と温暖な気候に恵まれています。海、山、川、そして輝く瀬戸内沿岸の空からなる景勝地です。地元の著名な儒教学者、歴史家、芸術家、詩人である頼山陽（1780–1832）は、竹原から見た瀬戸内海の夕暮れの風景を表すために、三紫水明という言葉を作り出しました。